

Marshall

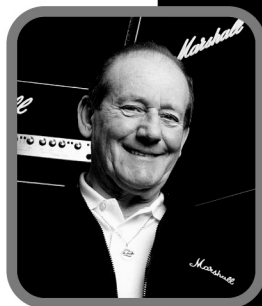


EL84 20/20

EL34 50/50

EL34 100/100

VALVE POWER AMPS



From Jim Marshall

Marshallのステレオ・バルブアンプをお買い上げいただき有難うございます。

1962年以来、マーシャル社は世界最高級のバルブアンプの開発に専念して参りましたが、そのなかで、バルブ（真空管）そのものがマーシャルサウンドの確立に果してきた役割にも非常に大きなものがありました。

バルブとギタリストのあいだには、言わば深い絆のようなものがあり、マーシャル社は、バルブアンプのユニークなキャラクターを積極的に追求することで、この絆を確固たるものにしてきました。

パワーアンプEL84 20/20、EL34 50/50そしてEL34 100/100を設計するにあたって、我が社の設計チームは「品質の良さ」ということだけを念頭におき、持てる技術とノウハウのすべてを注ぎ込みました。

従来のバルブ技術と先進回路技術が融合した新しいバルブアンプは、ルックス、パフォーマンスの両面で驚異的な進歩をとげています。

バルブ技術の粋を結集したMarshallのバルブアンプは、あなたのステレオラックシステムで欠くことのできない役割を果たすことでしよう。

バルブアンプをご使用になるまえに本書を十分にお読みください。皆さんのご成功をお祈りします。

Marshall

JAPANESE

警告!

下記の内容を十分にお読みください

- A. 電源プラグは該当国の規制に従って配線してください。
 - B. ヒューズを外して使ったり、定格外のヒューズを使用しないでください。
 - C. アンプをコンセントに接続した状態でヒューズやバルブを交換しないでください。
 - D. アンプのシャーシを外さないでください。内部にはお客様の取扱いできる部分はありません。
 - E. アンプの修理とサービスは、ご購入の店を通じてご依頼ください。
 - F. 湿気の多い場所や濡れた状態でアンプを使用しないでください。
 - G. ラウドスピーカーを接続していない状態でアンプに電源を入れないでください。
 - H. 外部キャビネットはインピーダンスが整合するものを使用してください。
 - I. 警告：標準ラックまたはフライトケースに取り付けるときは、ケースの前後を完全に取り外してください。アンプを単体で使用するときは、上部、後部、および左右に30センチ以上の間隔をあけてください。
 - J. アンプに電源を入れる前に、本書を熟読してください。
- 警告：このアンプはアースを接地しなければなりません。**

はじめに

バルブ技術の最先端をはしるMarshallのステレオ・バルブアンプ（EL84 20/20、EL34 50/50、EL34 100/100）は、これまでにない革新的な機能を満載し、そのスタイリングと斬新な回路設計は他の追随を許しません。

EL84 20/20

EL84パワーバルブを搭載する最新機種EL84 20/20は、1960年代初頭のブリティッシュロックサウンドを現代に伝えます。コンパクトなボディにパワー、機能、そして余裕のキャパシティをそなえるEL84 20/20は、クラブギグから大規模なコンサートまで、あらゆるプレイシチュエーションにパーフェクトに対応します。

遠隔操作の可能なディープ・スイッチを使えば、プリアンプからの信号特性を劇的に変化させることもできます。どんなプリアンプでも、ひとたびEL84 20/20に接続すれば、バルブ特有の暖かなサウンドを加味することができるのです。ラックアンプの世界に新風を吹き込むコンパクトな優れものといえるでしょう。

EL34 50/50 & EL34 100/100

ゴールドのフロントパネルが眩しいEL34 50/50とEL34 100/100。整然と配列されたコントロール類がスムーズな操作を保証します。完全に独立した「モノブロック」は、高価なバルブHi-Fiアンプにしか許されない贅沢。共有部分は電源コードだけなので、一方がダウンしても他方は作動します。

マーシャル社では、バルブアンプ技術について絶えず研究を積み重ねて、回路設計をさらに向上させました。これによりパワーアンプの全体的なフィーリングと演奏レスポンスをドラマティックに変化させることに成功しました。マーシャルの新しい回路設計技術のひとつに、完全差動インバーター（TDI）技術があげられます。この技術向上により、フェイズ・スプリッター（インバーター）機能が拡張され、現在使用されている他社の回路よりも、さらに完全差動アンプに近づくことができました。フェイズ・スプリッターの原理は、入力信号を受け取り、その半分をインバート（反転）します。このインバートされた方の信号が、サウンド・エンベロープの下半分を形成し、インバートされていない方の信号が、サウンド・エンベロープの上半分を形成します。TDI技術の効果によって、バルブアンプ独特のオーバードライブとコンプレッサー効果をそこうことなく、広帯域にわたって鮮明なサウンド・スペクトルを得ることができます。

さらにTDIによって、フィードバック・ネットワークの大胆な利用が可能になるばかりでなく、各チャンネルに装備されたボイシング・スイッチの威力を発揮することができます。この優れたボイシング・オプションは、リモート操作が可能で、スイッチを切り替えるだけで、プリアンプのトーン形成を飛躍的に拡張します。

ラックへの取付け

ラックにしっかりと固定するため、前（EL84 20/20）と前後（EL34 50/50 & EL34 100/100）に取付用の穴が用意されています。EL34 50/50 & EL34 100/100のような重いラックユニットは、適切なブラケットを使ってユニットの後部も支える必要があります。バルブアンプはある程度の熱を発生させるので、風通しの悪い場所での取付け/使用は絶対に行なわないでください。

EL84 20/20のフロントパネル



1. **レベル** EL84 20/20のボリュームを調整します。
2. **プレゼンス** ブライトな感じが増し、高域の切れ味が良くなります。
3. **ディープ** ディープ・スイッチを押すと、スピーカー・ダンピングの効果が得られます。スイッチ・オンにより、ズシリとした低音が加わります。サウンドの違いは、オープン・キャビネットをクローズ・タイプにしたような感じになります。
4. **スタンバイLED** スタンバイをオンにすると点灯します。(6を参照)
5. **電源LED** 電源をオンにすると点灯します。

(7を参照)

6. **スタンバイ** アンプを使用していないときに、バルブを暖めておきます。

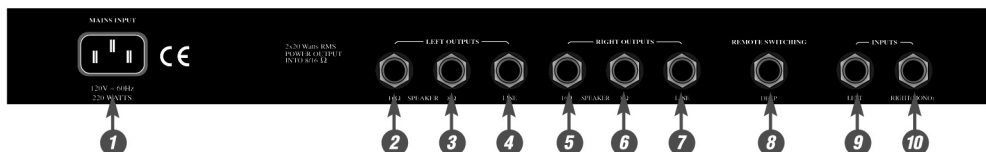
7. **電源スイッチ** 電源をオン/オフします。

注：バルブの寿命を伸ばすため、電源スイッチ(7)をオンにして1分程おいてからスタンバイ(6)をオンにしてください。こうすれば、使用する前にアンプを完全に暖めておくことができます。

電源を切るときは必ず、スタンバイをオフにしてから電源スイッチをオフにしてください。

特にライブのときは、スタンバイを使えば、セットの間の演奏をしていないときでも、バルブを暖まった状態にしておけるので、とても便利です。

EL84 20/20のリアパネル



1. **電源入力** アンプに電源コードを接続します。

左出力

2. **ジャック (16Ω)** 16Ωのスピーカーキャビネット(左)を接続します。
3. **ジャック (8Ω)** 8Ωのスピーカーキャビネット(左)を接続します。
4. **ライン** エフェクトプロセッサーやハイパワーアンプに接続して、スピーカー信号より減衰された信号を送ります。

注：20/20は常に、左右の出力を両方とも接続した状態で使用してください(「ローディングポイント」を参照)。

右出力

5. **ジャック (16Ω)** 16Ωのスピーカーキャビネット(右)を接続します。
6. **ジャック (8Ω)** 8Ωのスピーカーキャビネット(右)を接続します。
7. **ライン** エフェクトプロセッサーやハイパワーアンプに接続して、スピーカー信号より減衰された信号を送ります。

注：20/20は常に、左右の出力を両方とも接続した状態

で使用してください(「ローディングポイント」を参照)。

ローディングポイント

20/20は8または16Ωスピーカーに2×20ワットを供給します。

20/20には、8または16Ωのいずれか一方のスピーカーを接続してください。8Ωと16Ωのソケットを同時に使用しないでください。

リモート・スイッチング

8. **ディープ** ディープ機能は、フロントパネルでの操作のほかにフットスイッチやエフェクトプロセッサーで切り替えることができます。フットスイッチ／エフェクトプロセッサーを使った切り替えはフロントパネルでの切り替えより優先します。

入 力

9. **左** ステレオプリアンプの出力(左)を受け取ります。
10. **右 (モノラル)** ステレオプリアンプの出力(右)、またはモノラルプリアンプのモノラル出力を受け取ります。モノラル信号は両方のチャンネルに送られます。

EL 34 50/50 & EL 34 100/100のフロントパネル



1. チャンネルA電源スイッチ チャンネルAの電源をオン/オフします。オンの状態で、LED3が点灯します。

2. チャンネルAスタンバイスイッチ チャンネルAの高圧回路の電源をオン/オフします。オンの状態で、LED4が点灯します。

注：バルブの寿命を伸ばすため、電源を入れて1分以上おいてからスタンバイ（2）をオンにしてください。

3/4. 電源&スタンバイLED

5. ボイスB LED チャンネルAのボイスオプションをAからBに切り替えると、赤く点灯します。

6. チャンネルAボイストグルスイッチ ボイスオプションのAとBを切り替えます。リアパネルのリモートボイススイッチングジャックからでも切り替えられます。（リアパネルの機能説明を参照してください）リモートスイッチを使用する場合は、このトグルスイッチをBの位置にしておいてください。

7. チャンネルAプレゼンスコントロール 中高域のサウンドをブーストします。

8. チャンネルAゲインコントロール 入力信号のレベルを設定してバランスをとるためのコントロールです。

9. チャンネルBゲイン

10. チャンネルBプレゼンス

11. チャンネルBボイス切替スイッチ

12. チャンネルBボイスLED

13. チャンネルBスタンバイLED

14. チャンネルB電源LED

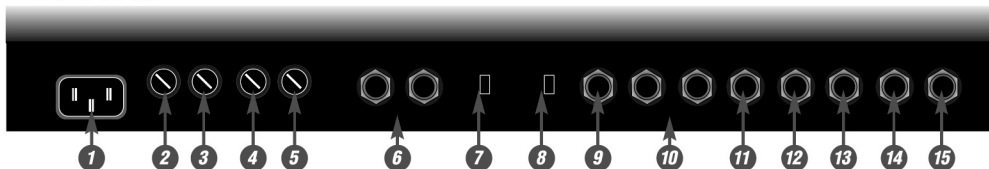
15. チャンネルBスタンバイスイッチ

16. チャンネルB電源スイッチ

注：チャンネルAの「注」を参照してください。

17. フロントラック取付け用穴

リアパネル



1. 電源コードインプットソケット アンプに電源コードを接続します。

2. チャンネルB電源ヒューズ 仕様表でヒューズの定格を確認してください。

3. チャンネルA電源ヒューズ 仕様表でヒューズの定格を確認してください。

4. チャンネルB HTヒューズ 仕様表でヒューズの定格を確認してください。

5. チャンネルA HTヒューズ 仕様表でヒューズの定格を確認してください。

6. チャンネルBラウドスピーカージャック チャンネルBをラウドスピーカーに接続します（EL34 50/50=50 W RMS、EL34 100/100=100 W RMS）。

7. チャンネルB出力インピーダンスセレクト 16または8Ω。必ずアンプとスピーカー

の負荷を一致させてください。

注：4Ωで使用する場合は販売店に問い合わせてください。

8. チャンネルA出力インピーダンスセレクト (7を参照)

9. チャンネルAラウドスピーカージャック (6を参照)

10/11. リモートボイシングスイッチングジャック (10=チャンネルB、11=チャンネルA) ジャック11のみのときはAとBをリンクして同時に使用できます。

12. チャンネルBリンク出力ジャック チャンネルBの入力信号を別のパワーアンプに接続します。

13. チャンネルB入力ジャック プリアンプの出力を受け取ります。

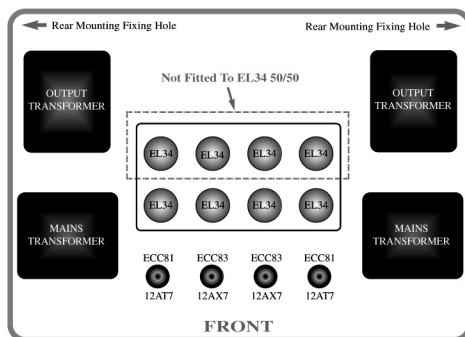
14. チャンネルA入力ジャック プリアンプの出力を受け取ります。

注：ジャック14のみの場合は、両方のチャンネルにモ

ノラル信号が供給されます。

15. チャンネルAリンク出力ジャック チャンネルAの入力信号を別のパワーアンプに接続します。

真空管の配置図



仕様表

パラメーター	EL34 50/50	EL34 100/100	備 考
サイズ	19インチ3U ×331ミリ奥行き	19インチ3U ×331ミリ奥行き	ラックマウントするときは、リア側でも支えてください
重 量	29.5 kg	34.5 kg	
入力電力	350 W	700 W	
入力電圧	115Vまたは230V	115Vまたは230V	アンプの定格表示を参照、または販売店に問い合わせてください
周波数	50または60 Hz	50または60 Hz	アンプの定格表示を参照、または販売店に問い合わせてください
電源ヒューズ	T3.15A/115V	T4A/115V	各チャンネルあたり
	T1.6A/230V	T2A/230V	各チャンネルあたり
HTヒューズ	T315 mA	T1A	各チャンネルあたり
出力電力	50W RMS	100W RMS	ピーク時（各チャンネルあたり）
出力インピーダンス	8または16Ω*	8または16Ω*	4Ωで使用する場合は販売店に問い合わせてください
入力感度	0dB	0dB	
入力インピーダンス	20 KΩ	20 KΩ	
出力真空管	2×EL34	4×EL34	各チャンネルあたり
フェイズ・インバーター	1×ECC81/12 AT7	1×ECC81/12 AT7	各チャンネルあたり
プリアンプ・ドライバー	1×ECC83/12 AX7	1×ECC83/12 AX7	各チャンネルあたり